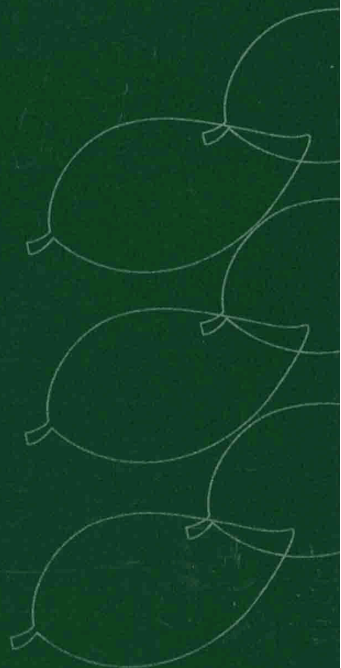


# 企業が できる こどもたちへの 環境学習支援

Learning and Ecological Activities  
Foundation for Children



# 1枚の樹名板で 人と植物を結びつける

株式会社アボック社 企画営業室副所長 石井 渉



名板とネイチャーサインが同社の中心事業となっている。

で、営業や施工作业に西日本全域の野山を走り回っている。「実は山より海の方が好きなんですけど…」と苦笑いするが、登山標識などのネイチャーサインの取り付けや改修の際は、ときに深い山中に入り込んで野生の熊と遭遇することもあり、まさに命懸けの仕事もこなしている。今回のLEAFとの環境学習は、石井渉さんが担当することになった。

「野山や公園で植物に樹名板を取り付けることは、子どもたちだけでなく大人も含めた広い意味での環境学習になっているのではないだろうか。」と、

石井渉さんは語る。日本人は元来「名前」に関心を示す民族なので、樹名板を取り付けることで今まで植物に関心がなかった人も、ふと足を止めて植物の名前や種類などを読み、少しでも植物に関心を寄せるようになっていくのではと。1枚の樹名板が、それぞれの人が野山を守り、地球環境を守るように意識が変容していく一つのきっかけになることが同社の願いである。



出前授業を担当する大阪営業所のスタッフ  
(前列左は石井 通博 所長)

エネルギーの分科会を通じた学校での出前授業では、『緑のエネルギー』をテーマに植物の光合成による空気の循環を伝えた。肩に力を入れずに自然体で環境に向き合っている同社らしいプログラムである。授業方法は、子どもたちが植物に関心を示すようにクイズ形式にし、高得点を出した子どもには校庭に植えられた花や樹木に樹名板を取り付けてもらう特典を与えた。また、校庭と砂漠の2枚の絵を見せて、どちらが好きか、なぜ好きなのかを子どもたちに問いかけてみた。ほぼ全員が校庭の方が好きだと答え、その理由は「木があるから」ということが分かったときに、伝えた内容を心で感じ取ってもらえたように思った。

現在、同社が運営するNPO法人・栽培植物分類名称研究所では、人と植物が触れ合うための新しい取り組みとして携帯電話から花の名前を調べることができる無料情報サイト『はなせんせ』(<http://aboc.jp/>)を提供している。これは、携帯電話のカメラで撮った植物の写真を同サイトに送信するとい

その植物の名前や種類などを利用者同士で教え合うもので、植物の名前を入力すれば同社が持つ2万種類のデータベースから写真や解説、絵などを見ることがもできる。「この携帯サイトを野山で図鑑代わりに使ってもらって植物に親しみ、環境保全の大切さを感じるきっかけになればいいと思います。」と語る石井渉さん、今日も同営業所のスタッフ1丸で人と植物を結びつけるべく野山を駆け回っている。

## 株式会社アボック社

創業年：1975年6月25日  
資本金：9600万円  
代表者：代表取締役社長 毛藤 マリコ  
従業員数：32名  
業 種：案内・解説サイン、及び植物名ラベルの設計、製作 環境・自然史関係の出版  
住 所：〒247-0056 神奈川県鎌倉市大船2-14-13  
TEL：(0467) 45-5119 (代)  
FAX：(0467) 45-6591 (代)  
URL：http://aboc.co.jp/